平成24年度 おおさき福祉の心コンクール 入賞おめでとうございます

主催 社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会
共催 社会福祉法人 宮城県共同募金会
後援 大崎市・大崎市教育委員会・㈱大崎タイムス社

大崎市内の小・中学生を対象に、「思いやり」「支えあい」の心を定着させ、地域福祉活動やボランティア活動への関心を高め、活動参加や福祉の心を育むことを目的に、「おおさき福祉の心コンクール」を実施いたしました。

それぞれの部門に、合計654点という沢山の作品を応募いただき、ありがとうございました。入賞された皆さんをご紹介いたします。

〈敬称略〉

◆福祉作文の部

〔小学生の部〕

◇**最優秀賞**
鹿島台小学校　二年　斎田　光

◇**優秀賞**
鬼首小学校　五年　髙橋　萌美
古川第四小学校　二年　伊藤　千遥

◇**優良賞**
古川第一小学校　六年　菊地　紗矢香
下伊場野小学校　五年　清野　駿
志田小学校　四年　佐々木　隆成

〔中学生の部〕

◇**最優秀賞**
三本木中学校　一年　千葉　綾

◇**優秀賞**
古川南中学校　二年　横山　知佳
古川南中学校　一年　佐々木　紗奈

◇**優良賞**
鹿島台中学校　一年　佐藤　璃久
古川南中学校　二年　千葉　陽平
鹿島台中学校　三年　渡邊　大稀

◆福祉ポスターの部

〔小学生の部〕

◇**最優秀賞**
古川第三小学校　六年　佐藤　鈴果

◇**優秀賞**
岩出山小学校　四年　阿部　理久
富永小学校　四年　仙石　翔恭

◇**優良賞**
岩出山小学校　五年　石田　恭子
池月小学校　六年　松田　奈々美
川渡小学校　六年　湯山　花乃

〔中学生の部〕

◇**最優秀賞**
古川北中学校　三年　佐々木　雪和

◇**優秀賞**
古川東中学校　二年　野村　舞
古川北中学校　二年　鹿野　愛美

◇**優良賞**
松山中学校　二年　氷室　友佳乃

◆福祉標語の部

〔小学生の部〕

◇**最優秀賞**
川渡小学校　六年　中鉢　佳了

◇**優秀賞**
松山小学校　六年　斎藤　ひろか
鹿島台小学校　五年　長谷川　真葉

◇**優良賞**
松山小学校　二年　松瑚　白
古川第一小学校　五年　遠山　健太朗
鹿島台小学校　二年　高橋　惇之将

〔中学生の部〕

◇**最優秀賞**
古川学園中学校　二年　小林　諄樹

◇**優秀賞**
田尻中学校　一年　佐藤　真衣
古川学園中学校　二年　齋藤　今日香

◇**優良賞**
松山中学校　一年　石川　寛人
松山中学校　三年　大黒　さき
古川南中学校　一年　小田嶋　皐

◆福祉書道の部

〔小学生低学年の部〕

◇**最優秀賞**
富永小学校　三年　工藤　里菜

◇**優秀賞**
西大崎小学校　三年　佐藤　結
松山小学校　三年　今野　敦哉

◇**優良賞**
古川第五小学校　三年　塚口　遥斗
岩出山小学校　二年　佐々木　妃新
古川第三小学校　三年　小野　由萌香

〔小学生高学年の部〕

◇**最優秀賞**
古川第二小学校　六年　蓬田　悠樹

◇**優秀賞**
田尻小学校　六年　千葉　菜々
古川第一小学校　六年　中條　天斗

◇**優良賞**
鹿島台第二小学校　六年　遠山　知優
岩出山小学校　六年　平野　温子
古川第三小学校　六年　早瀬　綾佳

〔中学生の部〕

◇**最優秀賞**
古川西中学校　一年　佐々木　さくら

◇**優秀賞**
古川中学校　二年　鈴木　彩香
松山中学校　三年　大黒　さき

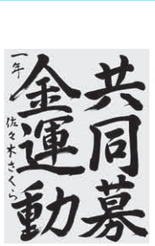
◇**優良賞**
古川学園中学校　三年　高橋　実来
鹿島台中学校　三年　角田　茉依
松山中学校　三年　宮澤　翔太

〔福祉書道の部　最優秀賞〕

◇小学生低学年の部
富永小学校　三年　工藤　里菜

◇小学生高学年の部
古川第二小学校　六年　蓬田　悠樹

◇中学生の部
古川西中学校　一年　佐々木　さくら



最優秀賞を受賞した皆さん

福祉作文の部 小学生の部

最優秀賞

この夏ぼくが考えたこと

大崎市立鹿島台小学校　二年　斎田　光

ぼくのぴーちゃんは、九十三さいです。古川にすんでいます。

きょ年の東日本大しんさいでぴーちゃんのお家がこわれてしまいました。その家をたて直している間、ぴーちゃんがプレハブですごすのはさむいし、トイレに行くのも大へんなので、家ぞくみんなで話し合いをして、一月から　か島台のけい風えんに入ることになりました。

ぴーちゃんがけい風えんでさみしくないように、ぼくは学校のかえりに、お母さんといっしょにあそびに行きました。中に入るとおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいました。その中には車イスの人、ほ行きをつかってあるく人、ねたままの人もいました。ぼくがそばをとおると、おじいちゃん、おばあちゃんがニコニコとわらいながら「こんにちは」とぼくにあいさつをしてくれました。さいしょははずかしかったけど、ぼくも大きな声で「こんにちは」と言えるようになりました。

ぴーちゃんのへやに入ると、ぴーちゃんはぼくのかおを見ると、うれしそうに「光　来てくれたのか、ぴーちゃんうれしいなぁ。」と言っていつもむかえてくれます。ぼくは学校で楽しかったことや、古川のお家がどのくらい出来てきたかなどを話してあげます。それを聞いたぴーちゃんは、ちょっとかなしい顔をして「早く家にかえりたいなぁ。」と言いました。それを聞いてぼくは、ちょっとかなしくなってしまいました。

ぴーちゃんのところにあそびに行くとたくさんはたらいている人がいます。ごはんをたべさせてあげたり、トイレにつれて行ってあげたり、おふろに入れてあげたりしているところを見て、たいへんなしごとだなぁと思いました。

六月になってやっと、ぴーちゃんのお家がかんせいしました。かえれる日がきまると、ぴーちゃんは何回も何回もカレンダーを見て、ぼくにかえる日を教えてくれました。そんなぴーちゃんを見て「自分のお家にかえれるのがうれしいんだなぁ」と思いました。

ぴーちゃんのおかげで、けい風えんがどういうところで、どんな人がいるのかを知ることができました。

けい風えんではたらいている人たちのしごとは本当に大へんなことばかりだけど、ぴーちゃんのように体が思うようにうごかない人たちにとって、すごくたすかるしごとだということも分かりました。

ぼくは、みんなでたすけ合ってなかよくすめる町がこれからもずっと続くよう、今手伝えることやできることは何か考えながら、これからの毎日をすごしていきたいと思います。

そして、学校でも、こまっている友だちを見かけたときには、しっかりたすけ合ってなかよくすごします。

福祉作文の部 中学生の部

最優秀賞

ありがとう、福祉の心

大崎市立三本木中学校　一年　千葉　綾

私は、生まれつきの病気のため、車いすに乗って生活しています。中学校では、車いすごと上の階に移動させてもらったり、運動会で友達に車いすを押してもらったり、いつも「ありがとう。」という気持ちでいっぱいです。

夏休みの宿題で出された「福祉の作文」。福祉の心って何でしょう。私がいつも味わっている、障害を持つ人に対する温かい気持ちが、間違いなく福祉の心だと思います。しかし、それだけではないと思います。私は、昨年経験したあの恐ろしい地震のときに、とても温かい福祉の心を見たような気がします。

あの三月の大地震。今までに経験したことのない揺れでした。小学校の下級生たちは、パニックを起こしたように、大声で泣いていました。避難するときにおぶってくれた先生の背中が、私に安心感をくれました。母と帰った家は、家のものがめちゃくちゃに壊れ、電気もつかない、水も出ない状況でした。私は自分で歩くことができないので、その夜は車の中で過ごすことになりました。夜が更けていっても、余震がくる度にどきどきして、ほとんど眠れませんでした。

そんなとき、わたしはこの頃一番の「ありがとう」を感じました。近所の方が、手作りの朝食を差し入れてくださったのです。それも一度ならず、二度も三度も。その方の差し入れは、電気と水道が復旧するまでずっと続きました。私が不自由なこと、私の母親たちが、私の世話で炊事も大変だろうと気遣ってのことだと思いました。食材を自由に手に入れられず、家族が食べるのでさえも大変だったでしょうに、本当にありがたかったです。その方は、夜になると湯たんぽを持ってきてくださいました。心の中が「ありがとう」でいっぱいになる出来事でした。こんな出来事を作り出すのが、福祉の心なのだと思います。

さらに、驚いたことがあります。母が私に話してくれました。家に井戸を持っている方が、水がなくて困っている人に水を分けてくれたという話でした。しかも、家の前に「ご自由に持っていってください」という張り紙までされていたというのです。貴重な水を知り合いに分け与えるのではなく、誰にでも同じように分け与えるという心、それこそが福祉の心だと思います。

障害や不自由のない人が、障害や不自由のある人に、なにかしてあげたいと思う気持ちだけが、福祉の心ではないと思います。誰かが近くにいる人に、通りかかった知らない人に、遠くで困っている誰かに、何かお手伝いをしてあげようと思う気持ちが福祉の心だと思います。

あの大地震のとき、商店の前や水道の前で誰も争うことなく列を作り、必要なものを譲り合った日本の人々の心は、福祉の心であふれていると思います。福祉の心があふれる日本を、私は誇らしく思います。